

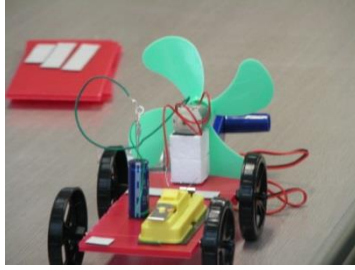
トピックス

吉川さいえんすクラブ 理科教室

7月14日 おあしすセミナールーム3

第100回理科教室が 吉川さいえんすクラブ主催、吉川市、吉川市教育委員会、吉川ロータリークラブの共催で7月14日おあしすセミナールーム3において開催されました。

今回の教室には 吉川市長中原様 吉川市教育長染谷様もお出でいただき 子供たちにエールを送って頂きました。





東武よみうり様が取材に見え 東武よみうり 7月 23 日号に 掲載されました。

理科の面白さ伝え 10年・「さいえんすく理科教室」100回

2018. 7. 23 (吉川市)



理科離れをなくせと吉川市内の小学生対象に、「吉川ロータリークラブ」や元文教大学教育学部教授の山田陽一さん（72）（同市中曾根）らが運営する「吉川さいえんすクラブ理科教室」が14日、100回目を迎えた。2008年7月にスタートしたが、モーターを使ったミニカー作りや磁石によるゴルフゲームなどの遊びを取り入れ、物の原理や仕組みを分かりやすく教えてくれると、子どもたちに大好評。これまでに約2800人が“卒業”した。14日には、100回目の記念教室が開かれたが、山田さんらは「これからも、未来の日本の技術を支える子どもたちを応援したい」と意欲を燃やしている。

同ロータリクラブ（尾ヶ井實会長）と山田さんらがボランティアで企画運営している、この理科教室は、同市と同市教育委員会の共催。

14日、同市市民交流センター「おあしす」セミナールームで開かれた記念教室のテーマは、「手回し発電機で車が走る」。小学生27人が参加した。

まず、山田さんが電気のできる仕組みを説明し、電流の流れ方やコンデンサーで電気を貯める仕組みなどを教え、その後、子どもたちは市販のキットを利用して、車の製作に挑戦した。

長さ約10センチ、幅約5センチのプラスチック製の板にモーターとプロペラ、4つの車輪をつけ、手回し式の発電機をつなげて走るもの。車体中央に小型蓄電器の「コンデンサー」を接続して電力を貯め、電源のオンオフもでき、車体前部のプロペラを回して風力で走行する。

一人1台ずつ完成させた後、机を2つ並べた「簡易レース場」で、停止線にどこまで接近して止まれるか

を競う「チキンレース」を楽しんだ。「発電機のプロペラを何回回すか」がミソ。回し過ぎると多く発電し、車は机から勢いよく転落してしまい、回し方が少ないと電力不足で途中で停まってしまう。

こうした遊びを通じて、子どもたちは電気やモーターの仕組みを学んでいた。

橋田知咲希さん（6）（同市立美南小1年）は「車を作るのは難しくないけど、発電機を何回回したらいいかが分からず、何度も車が転落した。とても面白い」と笑顔で話し、梶山陽音（はると）君（8）（同3年）は「4回目の参加。家に帰っても挑戦したい」と目を輝かせていた。

元吉川小学校校長で、理科教諭を目指す学生たちに教えていた山田さんは「理科を好きになってもらおうと始めて、あっという間の10年。子どもたちと接するのが楽しくて元気になれる。まだまだ続ける」と話す。

「さいえんすクラブ」事務局長の鈴木康雄さん（66）は「本来、理科は面白くて楽しいもの。今後も20年を目指して頑張りたい」と言い、尾ヶ井会長（66）は「理科離れをなくそうはクラブのテーマ。継続していきたい」と話している。

今回の参加会員は 山田陽一先生、戸張齊会員、尾ヶ井 實会員、鈴木康雄会員でした。